



岩田地崎建設

「緑の水田プロジェクト」

1 プロジェクトの背景と目的

岩田地崎建設株式会社では、地域の自然環境を守り、地元産業の活性化に貢献できる取り組みを検討する中で、2013（平成25）年に「緑の水田プロジェクト」を企画しました。

休耕田を再生し、生きものが暮らせる田んぼを取り戻すこと、そして米の消費拡大や日本酒文化の継承にもつなげたいという思いが、このプロジェクトの出発点です。

2014（平成26）年には最初の田植えを行い、有限会社毛陽農産様をはじめ、いわみざわ農業協同組合様、小林酒造株式会社様のご協力を得ながら、活動を続けてきました。

現在は約2,000㎡の田んぼで酒米を育て、毎年28俵（約1,680kg）を収穫し、そこから4合瓶2,500本の日本酒が生まれています。

2 取り組みの柱

（1）生物多様性の保全

休耕田を再生することで、水生生物や昆虫など、さまざまな生きものが暮らせる環境が戻ってきます。

田んぼは地域の生態系にとって大切な場所であり、その価値を取り戻すことが生物多様性の保全につながっています。

こうした取り組みは、「生物多様性基本法」や「北海道生物多様性保全計画」に沿った地域環境の保全活動として位置付けられています。

（2）稲作作付面積の維持・拡大支援

日本では長期的に水稻の作付面積が減少しており、地域農業の維持が課題となっています。

休耕田を活用する本プロジェクトは、地域の稲作面積を守り、広げていく力になっています。

特に酒造好適米は増産が認められている背景もあり、地域農業の持続性を高める取り組みとして重要な役割を果たしています。

（3）日本酒文化の継承と需要拡大

国内では日本酒の消費量が減少傾向にありますが、北海道では新品種の開発が進み、酒米の品質向上が注目されています。自分たちが育てた酒米が日本酒になる過程に関わることで、日本酒文化を未来へつなぐ一助となっています。完成した日本酒は贈答品や社内行事にも活用され、地域文化の発信にもつながっています。

（4）農業体験による地域農業支援

社員やその家族が田植えや稲刈りに参加し、農業の現場に触れることで、地域産業への理解が深まります。実際に体験することで農業の大変さや魅力を知り、地域を支える気持ちが育まれています。こうした体験は、地域農業の活性化にもつながっています。



3 プロジェクトの特徴

(1) 地域連携による価値の創出

本プロジェクトは、農業法人やJA、酒造会社など、地域の多くの方々と協力しながら進められています。建設会社という枠を超え、地域とともに価値を生み出す共創型のCSRモデルとして展開されている点が大きな特徴です。

(2) 社員参加型CSRの実現

社員が田植えや稲刈りに参加することで、地域とのつながりを身近に感じ、CSR活動を自分ごとの取り組みとして捉えるきっかけになっています。また、社員とその家族も気軽に参加できるよう、農作業体験の日には大型バスで会社から現地まで送迎するバスツアーを実施しています。こうした工夫により、幅広い世代が安心して農業に触れられ、社内の交流が深まるだけでなく、家族ぐるみで地域への理解が広がっています。このような参加しやすい取り組みが、企業文化を育む大切な要素にもなっています。

(3) 環境・産業・文化をつなぐ総合的な取り組み

生態系の保全、稲作支援、日本酒文化の継承を一体的に進めることで、多面的な価値を生み出し、環境・産業・文化をつなぐ総合的な取り組みとして、持続可能な地域づくりに貢献するCSRモデルを形成しています。

4 今後の展望

これまでの取り組みを基盤に、地域との連携をさらに深め、生物多様性の保全や農業支援、日本酒文化の継承をより確かなものにしていきたいと考えています。

参加者を増やして地域交流を広げたり、生きものの調査を継続して環境保全の効果を把握したりする体制づくりも進めていきます。

また、製造した日本酒のブランド化を進め、地域の魅力を発信する新たな手段として活用することも視野に入れています。

さらに、SDGsの目標2・12・15・17とも連携し、国際的な視点から持続可能なCSR活動へと発展させていく方針です。

5 まとめ

「緑の水田プロジェクト」は、農作業体験にとどまらず、自然環境の保全、地域農業の支援、日本酒文化の継承、そして地域との連携強化を同時に実現する岩田地崎建設ならではの総合的なCSR活動です。これからも地域とともに歩みながら、この取り組みを大切に育てていきます。